

5 学生の受け入れ

進捗状況報告

○施策の目標の達成度を測る指標		公開/非公開	全学的な視点	個別的な視点	単位	2005	2006	2007	2008	備考
指標1	入学者に占める一般入試入学者の比率	公開	○	○	%	75.4%	64.1%	73.6%	66.5%	一般入試入学者数÷入学者数 (注)一般入試にセンター入試を含む
表	入試形態別入学者数	公開	○	○		→	→	→	→	大学基礎データ15参照
表	学部の社会人・留学生・帰国生徒数	公開	○	○		→	→	→	→	大学基礎データ表16参照
○基礎的な状況を継続的に観測する指標		公開/非公開	全学的な視点	個別的な視点	単位	2005	2006	2007	2008	備考
指標2	志願者総数	公開	○	○	人	6,928	7,768	7,077	7,865	
指標3	志願者倍率	公開	○	○	倍	10.7	12.0	10.9	16.6	志願者÷入学定員
指標4	入学者に占める近畿圏出身者の比率	公開	○	○	%					近畿圏出身入学者数÷入学者数 (注)出身は出身高校の地域による
<small>注) 全学的な視点、個別的な視点について 全学的な視点とは入試部の進捗状況報告シートに表示される項目 個別的な視点とは各学部の進捗状況報告シートに表示される項目</small>										

多様な能力と資質をもった学生を入学させるという本学部の基本方針に則り、入学者全体に占める一般入学者比率は減少傾向にある。入試形態別に入学者の学習状態を追跡調査することにより、今後もそれぞれの枠における入学者数の調整を継続していくことになる。また、志願者総数はわずかながら増加している。とくに2008年度は、社会福祉学科の分離独立にともない、入学定員を650名から475名に縮小したにもかかわらず、前3年度に比べて多くの志願者を得た。2009年度は学部のカリキュラムを大きく改編し、再び入学定員を650名とする。新生社会学部の特色と教育目的を明確にすることで、今後も多くの志願者の獲得に努めていく。

学内第三者評価

入学定員が減少したにもかかわらず志願者総数が増加している。優れた学力や潜在能力をもった学生を求め、本学にふさわしい資質の学生を求め、多様性のある学生を確保すること、数多くの受験生を集めること、受験生の出願動向の変化への対応をすること、などに向けて持続的に努力していると認められる。入試形態別の入学者の学習状態の追跡調査をすすめること、学部の教育理念及び入学者受け入れ方針と、多様な各種入試のそれぞれとの関係について点検・評価し、各種入試の具体的な内容及び各種入試間の比重について点検する適切な仕組みのあることが期待される。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
入試形態別の入学者の学習状態の追跡調査および入学定員数を再び元に戻す2009年度以降の取り組みに期待したい。